全農藥通報

No294 平成 26年12月 20 日

目 次

◎全農薬の主な行事予定

- 全国農薬協同組合
- 植物防疫関係団体

◎平成 27 年全農薬地区会議日程

• 日時、会場等

◎組合からのお知らせ

- ・全農薬の行事等報告
- ・組合員の動き等
- 支部長交代等

◎写真でみる全農薬 50 周年記念行事

◎全農薬ひろば

・ヒツジグサ (睡蓮)



全国農薬協同組合

〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル 電話 03-3254-4171 FAX. 03-3256-0980

http://www.znouyaku.or.jp E-mail:info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な**行事予定**

「全国農薬協同組合」

- ① 「地区会議」(詳細は下記)平成27年2月4日~2月19日まで
- ② 「理事会」

平成 27 年 4 月 16 日(木)第 271 回理事会(全農薬 9F 会議室) 9 月 17 日(木)第 272 回理事会(全農薬 9F 会議室) 11 月 17 日(火)第 273 回理事会(全農薬 9F 会議室)

- ③ 「第50回通常総会」「第38回全国集会・情報交換会」平成27年11月18日(水)(平河町:海運クラブ)
- ④ 「監査会」

平成 27 年 10 月 23 日(金) (全農薬 9F 会議室)

⑤ 安全協常任幹事会 平成27年7月23日(木)

「全国農薬業厚生年金基金」

平成 27 年 1 月 20 日(火)委員会 平成 27 年 2 月 24 日(火) 理事会及び代議員会

「植物防疫関係団体」

農藥工業会:平成27年1月6日(火)賀詞交歓会(経団連会館)

全農薬地区会議

- ① 九州地区(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 日時:平成27年2月4日(水)、10:30~17:00
- ・場所:熊本市東区石原2-2-28「火の国ハイツ」
- **T** .096-380-3305 FAX.096-380-3308
- ② 近畿地区(滋賀·京都·大阪·兵庫·奈良·和歌山)
- 日時:平成27年2月5日(木)、10:30~17:00
- 場所:大阪市淀川区西宮原1-3-35「大阪ガーデンパレス」
- 7 .06-6396-6211 FAX.06-6396-6220
- ③ 北陸地区(富山・石川・福井)
- 日時:平成27年2月6日(金)、10:30~17:00
- ・場所:金沢市田中町か26-1「石川県農業共済会館」
- **5**.076-239-3111 FAX.076-239-0069
- ④ 東海地区(静岡・愛知・三重・岐阜)
- 日時:平成27年2月12日(木)、10:30~17:00
- ・場所:名古屋市東区葵3-16-16「メルパルク名古屋」
- **25**.052-937-3535 FAX.052-937-3673

⑤ 中国・四国地区(鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知)

日時:平成27年2月13日(金)、10:30~17:00

・場所: 丸亀市富士見町3-3-50「オークラホテル丸亀」

• **5** .0877-23-2222

FAX.0877-23-8595

⑥ 関東・甲信越地区(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野・新潟)

日時:平成27年2月17日(火)、10:30~17:00

場所:文京区湯島1-7-5「東京ガーデンパレス」

• **2**.03-3813-6211

FAX.03-3818-6060

⑦ 東北地区(青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島)

日時:平成27年2月18日(水)、10:30~17:00

・場所:仙台市宮城野区榴岡4-1-5「ガーデンパレス仙台」

• **3**.022-299-6211

FAX.022-299-6248

⑧ 北海道地区

日時:平成27年2月19日(木)、9:50~16:35

・場所:札幌市東区北6条東3-1「札幌総合卸センター」

• **3**.011-721-1101

FAX.011-721-1197

組合からのお知らせ

1. 全農薬受発注システム利用メーカー協議会

日時:平成26年10月21日(火)、15時30分~17時

• 場所: 全農薬 9F 会議室

• 議題:

1) 全農薬ホームページを使用したパンフレット共有について (IT・広報委員会 北濱委員長同席)

2) その他

・出席メーカー等

: シンジェンタジャパン(株)、住友化学(株)、日産化学工業(株)、日本農薬(株)、Meiji Seika ファルマ(株)、バイエルクロップサイエンス(株)、石原バイオサイエンス(株)、三井 化学アグロ(株)、サンケイ化学(株)、(株)電算システム

• 出席者:北濱 IT • 広報委員長、㈱サングリン太陽園 白石氏、事務局(堀江)

2. 全農薬監査会

日時:平成26年10月23日(木)、9時~11時

場所:全農薬9F会議室

• 議題: 平成26年度(第49期)決算監査

出席者:青木理事長、宇野副理事長、佐藤監事、羽隅監事、金井監事 事務局(堀江、安孫子)

3. 全農薬創立 50 周年記念行事実行委員会

日時:平成26年11月4日(火)、10時30分~14時

• 場所:全農薬9F会議室

• 議題:

1)全農薬創立 50 周年記念式典、祝賀会の進行手順、役割分担等 2) その他

出席者:青木理事長、宇野副理事長、羽隅実行委員長 司会担当者(佐藤監事、山本理事)、事務局(堀江、宮坂)

4. 農薬工業会虫供養

日時: 平成26年11月12日(水)、16時~17時45分

・場所:金龍山浅草寺本堂、浅草ビューホテル

• 出席者:青木理事長、事務局(堀江、宮坂)





5. 全農薬第268回理事会

• 日時: 平成26年11月18日(火)、15時30分~17時

• 場所:全農薬9F会議室

• 議題:

(1) 議決事項

1)第49回通常総会提出議題について

2) 平成 27 農薬年度価格(仕切価格) について

(2)協議事項

1)第49回通常総会次第について

- 2)第37回全国集会次第(案)について
- 3)全農薬創立 50 周年記念行事について
- 4) 全農薬ホームページの充実について(各社チラシ、登録農薬検索等)
- (3)報告事項
 - 1) 平成 27 農薬年度価格情報について
- 2) 慶弔関係等

(4) その他

出席者:青木理事長、宇野副理事長、金子常務理事、石黒常務理事 松木理事相談役、理事、監事、事務局(堀江、宮坂)

6. 全農薬第 270 回理事会

日時: 平成26年12月10日(水)、13時~17時30分

• 場所:全農薬9F会議室

• 議題:

- (1) 議決事項
 - 1)各委員会構成について
 - 2) 地区長、支部長委嘱について
 - 3) 平成 27 年度購買事業価格及び諸条件について

(2)協議事項

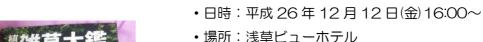
- 1)平成27年度課題(案)について(執行部協議会、委員会)
- 2) 平成27年度地区会議内容(講師等) について
- 3) 平成27年度行事日程について
- 4) 平成27年度安全協ポスター(案) について
- (3)報告事項
 - 1)全農薬創立50周年記念事業について (記念式典経費実績、全農薬50年史配布リスト案等)
- (4) その他
- •出席者:青木理事長、宇野副理事長、石黒総務委員長(コンプライアンス委員長兼務) 金子経済活動委員長、大森教育安全委員長、北濱 IT・広報委員長 理事、監事、事務局(堀江、宮坂)

7. 全農薬受発注システム利用メーカー協議会第5回総会

- 日時: 平成 26 年 12 月 11 日(木) 10 時 30 分~12 時
- 場所:全農薬9F会議室
- 議題:
- (1) 平成26年度事業概要報告
- (2) 平成27年度事業計画
- (3) その他
- ・出席会員:メーカー(五十音順)石原バイオサイエンス(株)、サンケイ化学(株) 住友化学(株)、ダウ・ケミカル日本(株)、日産化学工業(株)、日本農薬(株) バイエルクロップサイエンス(株)、三井化学アグロ(株)、MeijiSeika ファルマ(株) 全農薬受発注センター

全農薬:青木理事長、宇野副理事長、北濱 | 「・広報委員長、堀江参事

8. 公益財団法人 日本植物調節材研究協会創立 50 周年記念式典



• 出席者: 500 名

• 植調 雜草大鑑/浅井元朗著

50周年記念式典の参加者に「植調雑草大鑑」が配られた

出版:全国農村教育協会

• 出席者: 青木理事長、堀江参事、宮坂技術顧問





(式典で挨拶する小川 奎 理事長)

組合員の動き等

1. 支部長交代(敬称略)

【新潟県】

(旧) 大坂芳正(株) バイタルグリーン) ⇒ (新) 冨山道郎(株) 冨山

【高知県】

(旧) 井上晴夫 土佐肥料販売(株) ⇒ (新) 松村万平(株) 松村農園

2. 安全協幹事交代(敬称略)

【北海道】

(旧) 土屋拓郎(株) コハタ ⇒ (新) 石山浩介(株) 日の丸産業社

【青森県】

(旧) 工藤義明(株) 町田アンド町田商會 ⇒(新)後藤 純 トヤマ農材(株)

【管配值】

(旧) 滝沢豊(株) アグロ信州中信営業所 ⇒ (新)関 智(株) アグログリーン飯田営業所)

【静岡県】

(旧) 匂坂秀樹 日星石油(株) アグロ部浜松営業所 ⇒ (新)村田憲英(株) 加村農薬

【富山県】

(旧)原義勝(吉本商事株式会社)⇒ (新)谷内誠 (株)山正富山営業所

【福井県】

(旧)山脇敬三(株)上田五兵衛商店 ⇒ (新)針谷昌和(株)坂本商店

【和歌山県】

(旧)土井康雄 西日本グリーン販売(株) ⇒ (新) 垣本祥吾 日本農事(株)

【徳島県】

(旧)鶴田 新 (株)鶴田利七商店 ⇒ (新)森 新一 (株)ヨシミ

【香川県】

(旧) 香川智(株) 喜多猿八観音寺事業部 ⇒ (新)藤川司 三和機械(株)

【愛媛県】

(旧)金井正和(株)⇒(新)井上竜二 村上産業(株)

【高知県】

旧幹事 松村万平(株)松村農園 ⇒ (新)戸梶長廣 土佐肥料販売(株)

3. 代表者変更(敬称略)

【宮城県】

組合員名:仙台農産株式会社

新代表者:千葉久義 (旧代表者千葉喜一氏は代表取締役会長に就任)

全農薬創立 50 周年記念行事

1. 全農薬第49回通常総会

日時:平成26年11月19日(水)10時~11時45分

・場所:経団連会館(経団連ホール北)



• 議題:

1)第1号議案:平成26年度決算関係書類承認の件

2)第2号議案:平成27年度賦課金の金額及びその徴収方法

決定の件

3)第3号議案:平成27年度事業計画(案)並びに収支予算

(案)承認の件

4)第4号議案:平成27年度借入金最高限度額(案)決定の件

5)第5号議案:役員報酬額(案)決定の件

6)第6号議案:役員任期満了につき改選の件

別室における新役員による第269回理事会において理事長、

副理事長他執行部、

各委員長を下記のとおり決定した。

【新役員】

(1) 理事長・副理事長

理事長 青木邦夫 東海物産(株) 代表取締役会長副理事長 宇野彰一 (株)高岡屋 代表取締役社長

(2) 各委員会委員長

総務委員長 石黒 功 (株)石黒製薬所 代表取締役社長経済活動委員長 金子昌弘 カネコ種苗(株) 専務取締役

• 教育安全委員長 大森 茂 山陽薬品(株) 代表取締役社長

• IT • 広報委員長 北濱宏一 (株) サングリン太陽園 代表取締役社長

・コンプライアンス委員長 (兼) 石黒 功

注)教育安全委員長が全国農薬安全指導者協議会(安全協)の会長を兼ねる。

(3)全国農薬安全指導者協議会(安全協)

• 会長 大森 茂(山陽薬品(株))

副会長 鈴木健司((株)金星商会)

副会長 羽隅荘一郎(京浜興農(株))

今回の全農薬人事は、理事の若返りを図り、大胆な発想と行動力を持って、変貌する農薬流通変革に対応出来る人事を目指した。また、長年理事を務められた、松木三男(理事相談役)、羽隅弘治(監事)両氏と、廣田光彦(甲信越)、高津武司(九州)の両理事が退任した。また、新たな理事として、木幡光範(北海道)、小宮山朝夫(甲信越)、佐伯 誠(中国)、宮﨑 到(九州)、安倍了一(九州)の各氏が就任した。なお、執行体制は理事長、副理事長、各委員会の長が一体となった、執行部として対応することとした。また、堀江康雄専務理事は専務理事を辞して参事となった。

2. 安全協第37回全国集会

日時:平成26年11月19日(水)、12時45分~14時

• 場所:経団連会館(国際会議場)

- 議題:
 - 1)平成26年度事業報告、収支決算
 - 2) 平成27年度事業計画(案)、収支予算(案)
 - 3)役員改選
 - 4) 農薬シンポジウム実施報告
 - 5)新スローガン唱和

別室における新常任幹事による常任幹事会において副会長を下記のとおり

決定した(敬称略)

副会長 羽隅荘一郎、鈴木健司

3. 全農薬創立50周年記念式典

日時:平成26年11月19日(水)、14時20分~

• 場所: 経団連会館(国際会議場)

• 内容:

理事長挨拶

来賓祝辞:農林水產大臣、(一社)日本植物防疫協会、農薬工業会

表彰•感謝状:

- 1)農林水産大臣感謝状
- 2)消費•安全局長感謝状
- 3) 東京都中小企業団体中央会会長感謝状
- 4) 功労者表彰
- 5)物故役員感謝状

以下、写真により式典の様子を報告いたします。



(50周年記念式典で挨拶する青木理事長と会場の様子)

〇全農薬創立50周年記念式典開催に当たり青木理事長のあいさつ



本日こに、全国農薬協同組合創立50 周年記念式典のご案内をいたしましたところ、ご多用の中、西川農林水産大臣、ご来賓の皆さまを始め多くの皆様のご臨席を賜り心から厚くお礼申し上げます。

ご案内のとおり、全国農薬協同組合(全 農薬)は、昭和40年に組合員の相互互助 の精神で、経済活動を通じ組合員の地位向 上を図る目的で設立されました。お陰様で

創立50周年を迎えることが出来ました。この間、全農薬の運営と発展に格別のご尽力を 賜りました先輩諸氏、関係機関・団体、並びに組合員の方々に心より感謝申し上げます。 返り見ますと、戦後の荒廃した社会の中で、多くの先人達が強い使命感をもって、農薬と いう資材で食糧増産に全力を傾け、社会の安定のため大きく貢献された事は万人が認める ところであります。

昭和23年に系統組織の「全購連」が発足し、系統の販売体制が共同計算方式(共計制度)の基に活動が進展するにつけ商系代理店への圧力が高まり、全購連に対抗しうる商系組織の結束を計るべく中央組織として、昭和23年に「全国農薬販売組合中央会」が設立されました。その後、商系中央団体は幾度か名称を変えつつ存続の努力を重ねて参りましたが、メーカー依存体質と資金難のため、商系団体としての十分な組織活動が出来ないまま自然解散となりました。

その反省に立って、昭和 40 年に全国農薬協同組合が設立され、以来 50 年間、堅実に歩みを重ねる事が出来ましたことは、誠に感慨深いものが御座います。

この間、農林水産省を始めとする行政機関、関係団体の適切なるご指導と、多くの強い使

命感を持った先輩諸氏による組織の確立と確固たる経営基盤を築くべく努力された結果、 今日の我々があると確信し、先輩諸氏に対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げるもので御 座います。

この 50 年間は、大変激しい変革の時代ではありましたが、変革に対処すべく努力をしてまいりました。結果として国内農薬流通の 60%が私ども組合員を中心とした商系流通であると伺っております。これは組合員が地域に密着し、技術サービスを始め、情報、商流、物流サービス等の努力が評価されたものと考えています。

しかしながら、社会的責任、農薬流通上の責任は極めて大きいものと自覚いたしております。この責任を果たすためにも、更なる企業倫理と遵法意識を高めるとともに、変貌する業界において、農薬流通システムの改革と技術サービスを中心とした新たな農薬卸機能の強化に努めてまいります。

ここに、50年の歴史に心より感謝し、次の60周年に向けて輝かしい歴史を築くべく決意を新たに業界発展に努めてまいる事をお誓いするとともに、関係各位の更なるご指導、ご支援を賜ります様お願い申しあげます。

〇来賓あいさつ

● 西川公也農林水産大臣あいさつ



全国農薬協同組合が創立 50 周年を迎えるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴協同組合は、昭和 40 年に設立されて以来、50 年の長きにわたり、農薬の安定的供給及び安全な使用の確保を通じて、我が国農業の発展に貢献してこられました。この間、農薬の共同購買事業の拡大、組合員の病害虫防除技術の向上や

農薬の安全な使用の指導の強化を目的とした研修の実施、農薬安全コンサルタントを核とした農家への普及活動の推進など、広範にわたる活動により発展を遂げられ、今日を迎えられましたことは、誠に喜ばしいことであります。

申すまでもなく、農薬は、温暖湿潤で病害虫の発生しやすい我が国において、食料を安定的に供給していくために欠かせないものであります。一方で、農薬は、人の健康や自然環境に影響を及ぼし得るものでもあります。

そこで、国としては、農薬の登録制度を通じて、安全な農薬の確保と適正な使用の徹底に努めているわけでありますが、これを実効性のあるものとしているのは、ここにお集まりの、現場に立つ皆様方であります。

現在、我が国の農政は変革期にあります。農林水産省におきましては、農林漁業者の所得の向上や地域のにぎわいの創出を目指し、「攻めの農林水産業」の実行に力を尽くしております。国内外における新たな需要を開拓するとともに、これに対応した農産物・食品の開発・普及を推進してまいりますが、その際、需要の取り込みの前提となるのは、食品の安全と消費者の信頼であります。そのためには、農薬をはじめとする生産資材について、今後とも安全と安定的な供給の確保が必要であります。

また、世界に誇れる高い品質を有する我が国の農産物ではありますが、内外の市場の需

要に応えていくためには、農業の産業としての競争力の強化も必要となります。そのために、農業構造の改革などを加速化していくことはもちろんですが、生産コストの削減のために、生産資材費についても関係業界の方々の御協力をお願いしております。農薬の流通に携わっておられる皆様方におかれても、外国との競争にも負けない強い農業、美しく活力ある農村の実現のために、商系と系統が相補い、御尽力いただきたいと思うのであります。

最後に、創立 50 周年を契機といたしまして、貴協同組合が今後一層のご発展を遂げられ、 今後とも我が国農業の発展にご貢献いただくことを祈念いたしまして、私からのお祝いの 言葉といたします。

● 上路雅子 一般社団法人 日本植物防疫協会理事長あいさつ



全国農薬協同組合が創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお慶びを申し上げます。全農薬は、1965 年に農薬卸の団結と流通の円滑化、効率化などを目的に創立されて以来、農薬卸売業者の皆様が団結し、商系流通組織として農薬流通の中心的役割を担うとともに、早くから農薬の適正使用、安全使用の啓発活動に積極的に取り

組まれてきました。歴代理事長様をはじめ、組合員の皆様のご努力に深く敬意を表する次 第です。

日本農業のこの半世紀は、戦後の食料増産から一転しての米の生産過剰・減反、ガットウルグアイラウンドの締結、食料・農業・農村基本法の制定、さらに、近年は、農業従事者の高齢化と担い手不足、耕作放棄地の増大、TPP問題などと数多くの課題に直面する状況となっております。

一方、農薬を取り巻く近年の流れをみますと、農薬取締法の改正、GLPやポジティブリスト制度の導入のほか、食品安全基本法の制定、食品安全委員会の設置によるリスクの評価と管理の強化等を経て現在に至っております。

全国農薬協同組合は、農薬安全適正使用の推進を図るため、「農薬安全コンサルタント」制度を創設され、私ども日本植物防疫協会が主催する植物防疫研修会とタイアップして、エキスパートの育成に努めてこられました。その数は現在 1,500 名を超えており、様々な取り組みの中心になって活躍されていると伺っております。

また、青木理事長の「病害虫診断技術を身につけ、病害虫防除の処方箋の書ける専門家が必要」とのご提案により、農薬安全コンサルタントのレベルアップ研修として、昨年 9 月より農薬コンサルタントリーダー研修が開始されました。現場で役立つ多くの病害虫防除専門家が養成されること、大変期待致しております。

さらに、全国農薬安全指導者協議会の設置による"農薬安全一声運動"等をはじめとする安全使用の推進、一般消費者を対象にした農薬の有用性や安全性に関するシンポジウムの開催などを通じ、時代の要請に応じた農薬の安全推進、適正使用運動を全国的に展開されておられます。

近年、農業をめぐっては、地球規模の気候変動や世界人口の増加などにともない世界的

な食料不足が懸念されています。また、我が国の食料自給率は、先進国の中で最も低い約40%にとどまっているという現実があり、持続的かつ安定的な食料供給が喫緊の課題となっています。農業の生産性を将来にわたり維持向上させていくために、病害虫防除資材としての農薬の役割はますます重要になってくると確信する次第です。

農薬は、その登録にあたって各種安全性試験が実施されており、我々の生活に役立っている身の回りの化学物質の中でも、最も安全性が確保されているもののひとつです。しかし、それが必ずしも正しく理解されていない側面があるのも事実であり、農薬の有用性や安全性に関して科学的根拠に基づいた分かりやすい情報発信が、従来にも増して求められるようになってきています。さらに、農薬に係る法規制をめぐっては、海外における規制強化の動きや我が国における短期暴露評価の導入など新たな課題が山積しており、植物防疫関係者のより幅広で強固な連携と協力が不可欠になっています。

全国農薬協同組合の過去 50 年間にわたる様々なご貢献に改めて敬意を表するとともに、 農薬流通の新たな時代ニーズに、迅速、柔軟かつ適確に対応され、次の半世紀に向け新た な一歩を力強く踏み出されて今後ますます発展していかれることを祈念してお祝いの言葉 といたします。

本日は、本当におめでとうございました。

● 神山洋一 農薬工業会 会長あいさつ



ご紹介頂きました農薬工業会の神山でございます。この度全国農薬協同組合様が創立50周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

全農薬様は、全国の商系卸売業者が 結集した組織として1965年に 設立されました。設立当時は、農業 の近代化とともに農薬の使用が大

きく拡大していく時代でしたが、1971年の農薬取締法の大改正により、農薬は国民の食料の確保とともに環境の保全などの幅広い使命と責任を担うことになりました。この様な状況下で、全農薬様は時代の要請に応えるために、定期的な研修活動を開始され、「農薬安全コンサルタント」の育成に努めるとともに、1979年には全国農薬安全指導者協議会(いわゆる安全協)を組織化されました。その後はこの安全協様が中心となって農薬安全推進運動を進めておられます。

その後、時代は移り変わり、近年の日本農業は輸入農産物の増大、食料自給率の低下、減反政策の継続、コメの消費量減少、といった厳しい環境の変化に曝される様になりました。農薬についても安全使用や正しい知識の普及がより一層求められる様になって参りました。この様な変化の中で全農薬様は「農薬安全使用のための13か条」、「農薬取り扱い5つのチェック」等を適切に提示され、ポジティブリスト制度導入対応やトレーサビリティーについても指導的役割を担ってこられました。常に農家の立場に立ったこれらの啓発活動の積極的実施に対して深い敬意を表する次第です。また、流通の近代化への対応として、共同購買事業並びに高速道路大口・多頻度割引制度により、農薬の物流面においても多大な貢献をされています。全農薬様は私ども農薬工業会の大変重要なステークホルダー

且つパートナーであり、農薬の正しい理解と適正使用の推進について、全農薬様主催の「農 薬シンポジウム」では当会各支部が後援団体となり、当会主催の「農薬ゼミ」では全農薬 様が共催団体となり、お互い協力して一般消費者への啓発活動を行っております。

私ども農薬工業会は、安定的かつ持続的な食料供給を支えるための生産資材また農業技 術としての農薬の果たす役割はますます大きくなると考え、前年度に「JCPA VISION 2 025」を策定いたしました。このビジョンの重要課題の一つとしてステークホルダーと の的確なコミュニケーションを図ることを掲げておりますが、今後も全農薬様との緊密な 連携の下、共に日本農業の発展をお手伝いしたいと考えております。

最後に全農薬様の今後の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせて頂 きます。

〇 表彰・感謝状

農林水産大臣感謝状 羽隅弘治 氏(理事12期、内副理事長7期、監事2期)



〇笑顔で感謝状を受け取る羽隅弘治氏 消費•安全局長感謝状

〇西川農林水産大臣と羽隅弘治氏



松村 石黒 大森 小林局長 北濱 鈴木

消費・安全局長感謝状表彰者の皆さん

- •北濱宏一 氏(理事9期、内教育安全委員長1期、IT·広報委員長2期)
- 鈴木郁夫 氏(理事5期、内常務理事2期)
- 石黒功 氏(理事6期、内常務理事1期)
- ·大森茂 氏(理事8期、内IT·広報委員長4期)
- •松村博三 氏(理事6期、内教育安全委員4期)

東京都中小企業団体中央会会長感謝状



• 池田晃司(東北)、金子昌弘(関東)、上田修志(北陸)、宇野彰一(近畿)、金井謙一(中

四国)、安孫子芳子(事務局)の各氏(敬称略)

特別功労賞



•田中康貴 氏

3期6年にわたり安全協会長を 務められた。

ご苦労様でした。

功労者表彰(歴代技術顧問)



・岩田俊一、上垣隆夫、宮坂初男の各氏(敬称略)

物故役員感謝状



青木理事長から代表して感謝状を受け取る島 佑季子さん



•中村外志郎、吉田重男、宇野淳一、島 宗弘、栗原源博、松田伸彦、佐次 一、大森主、武市敏男 (敬称略)

4. 記念講演

• 日時: 平成26年11月19日(水)、15時30分~

・講師:田中理恵 氏(宇野彰一、宮越ゆう)

ロンドン五輪体操女子代表

日本体育大学児童スポーツ教育学部助教





田中理恵さん対談内容

●体操との出会い

高校で体操教師の父親や、元体操選手であった母親の影響で、幼いころから自然と体操に 興味を持った。同じく体操の道に進んだ兄や弟と支えあい、刺激しあいながら高校まで地 元和歌山で選手生活を送る。

●ロンドンオリンピックに出場して

自身がいつも大切にしている美しい演技を心がけて演技を行った。日本史上初の3兄妹(兄、本人、弟)揃ってのオリンピック出場を果たし、自分自身が楽しんで出場することができた。

●2020年東京オリンピック招致活動について

英語が苦手だった為、断り続けていた招致委員としてのスピーチだが、英語の猛特訓とスピーチの指導を受けて臨んだ。招致に尽力したことは素晴らしい経験であり、今育っている若手が2020年に日本、東京で演技することができるのは誇らしい。

●現在の活動について

日本体育大学 児童スポーツ教育学部 助教として若手の育成に努めている。全力で向かってくる子供たちにいつもパワーを感じ将来が楽しみ。NHK BSプレミアム食材探検おかわり!にっぽん」MCとして、日本各地の農産物と、それを使ったおいしい料理を紹介。選手時代は厳しい食事制限のためなかなかお腹一杯食べることができなかった。農業にかかわることも初めてなので、毎回がとても楽しい。番組を通して多くの人に各地の名産、料理を知ってもらえたら嬉しい。(高知のニラ、タケノコが美味しかったそうです。)

●農薬に関する質問

問: BS番組にて農業現場を歩かれている中で、農薬については、どんな印象を持っているか?



答:以前は、農薬と言えば、危険なイメージを持っていたが、全農薬から頂いた資料をしっかり読んだ結果、人に対する安全性は十分に確認されているようで、正しく使えば安全で大変有用なものだと思っている。また、良質な農産物の生産には、欠かせないものだと本当に思っている、

と前向きなコメントを頂いた。

5. 記念祝賀会

・日時:平成26年11月19日(水)、17時~

・場所:経団連ホール(北・南)

• 内容:

理事長挨拶

来賓祝辞:(農林水産省消費·安全局長、FAMIC 理事)

鏡割り 乾杯

中締め:(公社)緑の安全推進協会 お礼のことば:羽隅実行委員長



○鏡割の酒樽を前に勢揃した全国農薬協同組合の新旧役員

"全農薬記念祝賀会は「和食をテーマ」にしたおもてなしで"

平成25年12月アゼルバイジャン共和国のバクーで開催されたユネスコ無形文化遺産保護条約の第8回政府間委員会において、我が国から提案した「和食;日本人の伝統的な食文化」が12月4日に登録されました。

全農薬では、せっかくの機会なので祝賀会は「和食」をテーマにした、おもてなしをしようと言うことになりました。しかし、担当が経団連会館の担当者と相談すると、これまでも和食をベースにした催しは多くあったが、いつも洋食・中華料理は皆さん喜んでお食べになるが、和食は殆ど残されますとのお話であった。事務局では、インターネット上で地域の特産品を調べるとともに、パーテーにあった料理になるよう資料を集め、担当のシェフと交渉を重ねた結果。以下の写真のようなお料理を用意した。皆さんご協力ありがとう御座いました。

なお、吟醸酒はパーテー開催の瞬間まで冷蔵庫で冷やしていたため写真には載っておりません。



地域の特産品の天ぷら

刺身と地域特産のつまもの



パーティーにあった一口大おにぎりと梅干し(南高梅)、漬け物など。



「加賀丸いも」のとろろ、麦ご飯も国産麦を使用



稲庭うどん

会津のお米とキノコのチャーハン







祝賀会「料理」材料一覧

※料理名

フレッシュチーズ盛り合わせ

お刺身盛り合わせ

松茸の土瓶蒸し

野菜の天ぷら取り合わせ

俵ミニおにぎり(南高梅入り)

うどん類

丹波の黒大豆御飯

麦とろ御飯

さしみこんにゃく

落花生

フルーツ・デザート類

県)

※材料・産地

チーズ(北海道)・干し柿(三重県)

大葉・つま菊・菊葉(愛知県)

すだち (徳島県)

くわい(広島県)・大葉(愛知県)・金時芋(徳島県)

米(新潟県・福島県)・南高梅(和歌山県)

稲庭うどん(秋田県)・讃岐うどん(香川県)

黒大豆(兵庫県)・米(新潟県・福島県)

米(新潟県・福島県)・加賀丸いも(石川県)

さしみこんにゃく(群馬県)

ゆで落花生(千葉県)

ラフランス(山形県)・みかん(和歌山県)・柿(和歌山

※飲み物

日本酒 秋田県・宮城県・栃木県・石川県・福井県

芋焼酎宮崎県・鹿児島県米焼酎熊本県・沖縄県

麦焼酎 大分県

ワイン 北海道・長野県



日本酒

黒龍(福井県)、日栄太郎(石川県)、一白水成(秋田県)、心祝い(宮城県)、仙禽(栃木県) 他、有名銘柄多種。

開会で挨拶する青木理事長

来賓として挨拶する小林消費・安全局長





来賓挨拶で農林水産省消費・安全局の小林裕幸局長は古くは米 1 石の収穫が上げられる田の面積を 1 反としていた。従って、土地の条件によって 1 反の面積は異なることになる。米 1 石は大人 1 人の 1 年間の消費量に相当する。「江戸時代は、1 反の田んぼから一石(150kg)のお米しか収穫できなかった。現在では、500kg を越えて収穫できるようになった。明治時代と比較しても200kg以上も収量が増えた。肥料、農業機械、農薬とそれぞれ生産性向上には貢献していると思うが、反収向上のかなりの部分が農薬の貢献によるものと思う。これからも農薬の適正使用に努め、良質な農産物生産と生産性向上に貢献して欲しいと挨拶された。



続いて、挨拶に立った農林水産消費安全センターの 曽根一人理事からは、 全農薬さんは、商系の卸業界 の全国組織として農薬の安定供給はもちろんのこと、 農薬安全コンサルタントの皆様を中軸とした農薬の安 全使用の啓蒙活動などにも貢献されてこられました。

全農薬さん、会員の皆様のこのような日々の努力があればこそ、50周年記念式典に西川農林水産大臣を始め、農林水産省の幹部の皆様、また、関係団体の皆様をお迎えして、50周年記念式典を盛大に執り行うことができたものと思います。本当におめでとうございました。 さて、農薬の登録状況について、紹介をさせて頂きたいと思います。今年、9月30日現在の農薬の登録状況ですが、有効成分としては、563有効成分が登録されております。10年前は、544有効成分でしたので、登録されている有効成分は少しづつ

増加しております。また、銘柄別では、4,339銘柄が登録されています。10年前の 銘柄の登録は4,769件でしたので、銘柄数は有効成分とは反対に減少しております。

私どもFAMICでは、登録されている4,339銘柄について一つ一つ検査をして おります。その検査結果は、最終的には適正な使用方法として農薬のラベルに記載されて います。 農薬の使用に当たっての、安全を確保するには、農薬の使用現場で、適正な使用方法が確実に守られる必要がございます。 そのためには、農薬ラベルに適正な使用方法が記載されていることはもちろん必要なことですが、それだけでは万全とはいえません。 農薬を使用する農家への安全使用の啓蒙活動が不可欠でございます。 農薬の安全使用の啓蒙活動は、行政サイドからは農林水産省をはじめ、都道府県、市町村が行っていますが、この啓蒙活動は農薬を使用する農家の1人1人にいきわたるようにすることが目的となりますので、全農薬さんのように農薬を販売する場面といった、行政サイドとは異なる切り口からの啓蒙活動は重要なものとなります。

今後とも、全農薬さんが農薬の安全使用の啓蒙活動に一層の貢献をなされるとともに、 創立 50 周年を契機に、全国農薬協同組合ならびに会員皆様のますますのご発展を心から祈 念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。と、挨拶された。



元気に鏡割をする皆さん



●乾杯の音頭をとる農薬工業会村田副会長 世界で生み出された農薬原体の35%~40%が日本の農薬業界から生まれたもので、日本の農薬業界は自信を持って、これらの技術を世界に発信すべきだ。 また、世界に冠たる日本の安全で安心な農産物を輸出していくことは、夢ではなくビジョンである。と挨拶後、日本酒で乾杯した。

●司会進行をする事務局の真山絵里と佐藤理事



フランス語なまりの日本語で司会進行する岩手県コンビの二人?



●和食に舌鼓を打つ会場の皆さん



●地元の食材がどのように 調理されているか確認中の 全農薬理事の皆さん。

地元じゃこんな食べ方はし ねーな?

流石、経団連会館のシェフは 違うね。と言ったかどうかは 不明。



中締めの挨拶に立った、(公社)緑の安全推進協会の吉村会長は全農薬は商系流通の要である また、農薬の適正使用に大きな貢献をしてきているこれからも同志として協力をしていき たいと挨拶された。



●最後に、全農薬創立 50 周年記念式典 実行委員会の羽隅弘 治委員長がお礼のこ とばを述べて閉会した。



●参加者の皆さんをお見送りする 全農薬新役員の皆さん。

全農薬ひろば

ヒツジグサ(未草) Nymphaea tetragona Georgi 英名: pygmy waterlily



来年の干支にちなんでヒツジグサ(未草) を選びました。

未草は、スイレン科の多年生水草で、全国の山地の池沼に自生。 大きな根茎が泥中にあり、卵形で光沢がある葉を水上に浮べる。7~8月頃、水面上に、ハスに似た白色の1花を開く。多数の花弁がある。果実は球形、結実すれば花柄は螺旋らせん状に短縮し、果実を水中に没する。漢名は睡

蓮。スイレン属(Nymphaea)は、スイレン科の属の一つで、日本にはヒツジグサ 1 種類のみ自生し、全国の池や沼に広く分布している。写真の花は帰省の際、長野県下で撮ったもので、きれいな小ぶりの白い花を午後、未の刻ごろに咲かせる事からその名が付いたと言われておりまが、私の見た限りでは午前中から夕方まで咲いておりました。

睡蓮はヒツジグサの漢名であるが、一般にスイレン属の水生植物の総称として用いられる。スイレン属の花は世界には、何十種類もある。普段良く見る大柄のスイレンは明治時代以降に輸入された園芸種で、日本古来のヒツジグサを含め広くスイレンと呼んでいる。学名の属名 *Nymphaea* は、水の女神である Nympha (ニンファー) から命名され、種小名は、花床が四角であることから tetragona (四角の) と命名された。

エジプトでは太陽神とゆかりの深い「再生の象徴」としての聖なる花で、今でも国花と



なっている。また、エジプトの他、インド、タイ、バングラデシュにおいても睡蓮が国花である。

しかし、我々になじみ深いのは、フランスの画家モネが描いた睡蓮ではないでしょうか。

実は、モネの睡蓮の花が日本にあるのです。 場所は、岡山県倉敷市の大原美術館です。

2000年の6月、遠くフランス、パリ郊外の小村 ジヴェルニのクロード・モネの庭の池から数種類の睡 蓮の株がはるばる倉敷市の大原美術館に送られ、中庭 の「モネの睡蓮の池」に植えられました。

毎年、綺麗に咲いているとのことです。

左の写真は大原美術館に2013年7月に休暇で行った際、撮影したものです。(M)

花言葉:心の純潔、純情・信頼

最後に、全農薬職員一同から・・・

「本年中は大変お世話になりました。来年も宜しくお願いいたします。 良いお年をお迎え下さい」

全農薬 50th